

政府 3回目ワクチンの遅れ

振り回されたる自治体

新型コロナウイルスの変異種オミクロン株の感染が急速に広がる中で、重要な対策となるワクチンの3回目接種が遅れています。政府の対応が後手に回っているため、実務を担う各自治体に混乱が広がっています。

(武田祐一・津久井佑希)

政府は当初、ワクチンの接種後、8カ月の間隔という方針でした。オミクロン株の感染急拡大を防ぐため、突然パッと出てくる接種の間隔を短縮。昨年末に医療従事者や施設に入所する高齢者は6カ月とし、13日に64歳以下の高齢者・一般の人は7カ月に変更しました。突然の前倒しに困惑する

自治体も。「国や県の方針を理解する対象である医療従事者は7・2万人、65歳以上の高齢者が53万人いまい」と語ります。この担当者は「一方的な政策決定ではなく、事前に市町村の要望を聞いてほしい」と語ります。

国内感染2万5000人超

10府県最多 第5波。ピーク迫る

国内では15日、新たに2万5742人の新型コロナウイルス感染者が確認されました。ただ15日時点でも、3回接種の間隔を短縮。昨年末に医療従事者や施設に入所する高齢者は6カ月とし、13日に64歳以下の高齢者・一般の人は7カ月に変更しました。突然の前倒しに困惑する

もの、「いつからやりま

した。2万人を超えるのは2日連続。「第5波」のた。

ピーグで、これまで最多だった昨年8月20日の2万5千人を上回りました。大阪府では過去最多となる36092人の感染が判明したほか、東京都では前週土曜日の1911人、広島県(1212人)、沖縄県(1829人)など9府県でも最多の990人に迫り、感染が急

速に拡大しています。これ、2日連続で4000人を更新しました。

供給は支援は

3回目接種の実務 自治体困惑

一面のつりき

首相官邸の資料によると、新型コロナウイルスのワクチン接種が2回目まで終った人は全国で約950万人(78・6%)います。ところが、3回目接種が終わったのは約1~2万人で0・9%にとどまっています。

とりわけ人口の多い自治体では、接種券の発送など準備作業の負担が重くなりますが、接種が重くなります。東京都世田谷区は人口約91万人で、23区で最多です。接種の対象者は70万人に上ります。一般高齢者への3回目接種を今月から始めています。区内の一般高齢者は16万人。3回目接種の1ヵ月の前倒しで、2月の接種対象者は6万人から12万7000人に増加しましたといいます。

区の担当者は「対象者が大幅に増えたため、数に応じた接種体制をどうのうして確保するかが課題だ」と懸念を打ち明けます。

大阪市では先行して3回目接種をうける医療従事者が5

万4000人、65歳以上の高齢者は54万4000人います。一方で5000人、65歳以上の高齢者は54万4000人います。

担当者は「国からの届いたワクチンの量が、まだはっきり決まっていません。接種を希望する人は、地域周辺の自治体で金銭に行き渡るかわからない。ワクチン供給の計画を、種が追いついているのか。



新型コロナウイルスワクチンの接種会場=15日、東京都世田谷区

気がかりなのは接種券の発行に、お金がかかることがあります。

新型コロナの接種券オーバークロン株の感染は、在田米原地区の米原から周辺に広がっており、接種を希望する人は、感染の急拡大による回目接種が追いついているのか。

担当者は「前回しではあるが4月以降の分はまだ確保されてない。国にはワクチンの確保をしてほしい」と要望します。米原町(滋賀県)は、2回目接種を終えた89万人を対象に順次接種を行います。

担当者は「前回しで予定が早まり、現場はスケジュールの調整、会場の確保、市民からの問い合わせへの対応で大変だ」として、もう掲載しません。

「国は前回しの方針でやるべき現場の準備があるので、早めにスケジュールを明確にしてほしい。それに見合つてワクチンの供給をしっかりとこなす」

回目接種の前倒しで、いま接種券の発送準備はこれから。対象者は2万数千人に上るといいます。担当者は「3回目接種が前倒しで進めている。しかし、接種の実務的に大変になっています」と話します。

米原町の新型コロナが感染拡大している状況。本島中部にある沖縄市では、一般的な高齢者への接種はこれまで対象者は2万数千人に上るといいます。担当者は「3回目接種が前倒しで進めている。しかし、接種の実務的に大変になっています」と話します。